

豊平河畔 だより

北海道社会保険病院



「なかのしま健康フェア」平成23年7月7日(木)～9日(土)開催
『無料健康測定(血管年齢測定・肺機能検査コーナー)』 北海道社会保険病院内

病院理念

患者さんを中心とした質の高い医療を提供し、地域から信頼される病院を目指します。

基本方針

1. 患者さんの権利を尊重し、人間愛を基調とした医療に努めます。
2. 安全で安心できる医療に努めます。
3. 説明と同意を基本とする医療に努めます。
4. 地域の医療・福祉施設との連携を推進します。
5. 地域の健康増進を目指し、保健予防活動を推進します。



Dr.からの ワンポイントアドバイス

男性の乳腺の病気

外科部長 数井 啓藏



女性の乳癌への関心は高まっていますが、今日は男性の乳腺の病気についてお話しします。

男性のおっぱいでも乳腺組織は存在します。男性の乳癌は無いと思っている人が多いようですが、乳腺組織をもっている以上あります。しかし、女性より乳腺組織がはるかに少ないので、その頻度は、女性の乳癌患者100人に1人の割合といわれています。男性で乳腺が腫れきたらやはり注意したほうがよいでしょう。しかし、男性の乳腺が腫れる原因のほとんどは乳癌ではなく、女性化乳房という現象によるものです。女性化乳房には2種類あります。

～思春期乳腺肥大症～

思春期の男子児童が急におっぱいが腫れ、シャツに当たると痛いということで、お母さんを伴って乳腺外来に受診することがあります。しかし、心配することはありません。これは思春期乳腺肥大症といい、思春期を迎えた男子児童の約60%に見られる現象で、何もしなくても数ヶ月で消失します。思春期乳腺肥大症は一側、または両側に生じることがあります。

～成人の乳腺疾患～

成人以降の男性に生じる女性化乳房には、肝機能障害による内分泌・代謝異常・薬による薬剤性のものなど、さまざまな原因があります。お酒をたくさん飲む人のおっぱいが、急に大きくなってきた場合は、肝硬変を含む肝機能障害が見つかることがあります。内分泌異常によるものとしては睾丸機能の低下(先天的睾丸機能不全・ウィルス性・外傷性・腫瘍性など)と、女性ホルモン過剰産生(睾丸腫瘍・肺癌の一種・甲状腺機能亢進症・副腎疾患など)などが原因となります。薬物による女性化乳房の原因薬剤は、女性ホルモン・ジギタリスという強心剤・血圧の薬・胃潰瘍の薬・結核の薬・抗けいれん剤の一種・抗精神薬等がありますが、これらの薬剤を中心するか、女性化乳房をきたさない他の薬剤に変更することで、1~3ヶ月で治癒します。もしもこのような症状が生じた場合は主治医にご相談ください。また数パーセントとはいえ、乳癌が潜んでいる場合もあるので、乳腺専門医に一度は否定しておいてもらう必要があるかもしれません。

One-point advice

ペインクリニックの諸事情

麻酔科部長 笠井 裕子



近年、北海道のペインクリニックは研修制度改変や後継者不足により減少の一途を辿っていました。そのため最近は当科にも他施設からの紹介や、行き場をなくした患者が自らネットで探しての受診が増えています。そこで困るのは当科の不得意分野の痛みへの対応です。ペインクリニックには薬物療法、神経ブロックなど、施設それぞれに得意な手法があり、同じ痛みでも全く違う診療方針があります。私どもは手術麻酔の中、週2回と限られた時間で予約診療を行っており、例えば通院できない患者、長期入院を要する患者、中枢神経系の痛みで脳外科的手法が必要な場合、うつ病や不安障害を伴い毎日の対応を求められる時、癌の痛みで往診を含めた在宅治療の希望などには応ずることができません。

私どもの外来の主な対象は、急性痛(例えば帯状疱疹痛、術後痛、血行不全、手術適応にない腰痛、頸肩腕痛など)が、何らかの原因で激化、遷延し、慢性の治りづらい痛みに変化していく、その途上の人々です。一概に痛みといつても成因は非常に多彩で、原因治療ができない場合や明らかな診断のつかないことがあります。しかし、どういう状態から痛みが生じ、どのように変容しうるか、痛みの本質の理解なしに行う治療は単に対症療法にすぎません。一見、複雑な痛みの性質と経過を推測し、適切な時機に適切な治療を選ぶ、そこがペインクリニックに要求される技術です。

～痛みと一緒に過ごすには～

さて、慢性の痛みを考える時、健康と病気を分ける境界はきわめて曖昧です。痛みは本来、自覚的なもので、「治る」「治らない」という区分ではなく、それが気になる程度(疼痛閾値)の違いがあるだけです。生きていれば必ず何らかの痛みを感じます。痛みは病気ではなく、痛みにとらわれることが病的状態なのです。ヒトの身体にはもともと痛みを抑える力(脊髄下行抑制系、脳内オピオイド)や治る力が備わっていますが、慢性痛患者の多くはその治癒力を失っています。健康と病気との分水嶺で痛みの進行をとめ、ヒト本来の治癒力を手助けすることが私どもの役目と考えています。

column

01

助産師外来はみんなのかけはし

母性看護専門看護師 白井 紀子



産科医療についての厳しい状況がメディアを賑わせて以降、安全で安心して妊娠・出産・育児が行える環境整備が期待されてきました。それに伴い、北海道内の助産を取り巻く状況も少しずつ変化しています。当病院では、ハイリスクからローリスクまでのすべての対象への周産期医療支援体制が構築されました。この過程の中で、妊産婦のニーズを受けてスタートしたのが“助産師外来”です。当病院の助産師外来開設は平成20年で、3年が経過します。妊婦・褥婦と助産師と医師のコラボレーションが、ここにはあります。

すべては…お母さん、赤ちゃん、そしてその家族のために

“助産師外来”は、妊婦・褥婦の健康診査並びに保健指導が助産師により行われる外来と定義されています。周産期にある母子とその家族に継続的に関わり、個人の意思を尊重した支援を実施するというのは助産師の責務ですが、実際には当病院の助産師にとっては“夢”でもありました。その理由は、外来から病棟まで、妊産褥全期間に渡って関わることは業務上の困難を伴い、その責務遂行の過程でジレンマを抱えることも少なくなかったからです。しかし、病棟と外来が一単位のチームとなり、熱意ある助産師の企画を経て皆の士気が高まった結果、助産師外来が実現し、継続支援が夢ではなく実践目標に変化しました。

現在、“助産師外来”は、医師と協働して実施している妊婦健診と、産後の母乳や育児に関する相談・指導を行う母乳外来の2本立てで運営しています。妊娠期から産褥期までの継続受け持ち制や、充分な時間を活用して個々のニーズを把握することができるようになり、妊婦と助産師の距離はぐっと近くなりました。その結果、バースプランや母乳育児の準備を、主役である妊婦自身が考え行動していく様子が見えてきました。そして、妊婦・褥婦と共に歩みながら、助産師外来も育てられていると日々感じています。助産師外来で妊婦健診を受けた方からは、「医師に聞けないこともじっくり聞くことができてよかったです。」「エコーで赤ちゃんの様子を長く見ることができたのがよかったです。」「妊婦健診の助産師がお産の時にいてよかったです。」等の評価をいただいている。

医師と助産師のチームワーク

妊婦健診は、妊婦だけでなく胎児の健康診査の的確さも重要であり、医師の協力を必要とする部分です。助産師外来で扱う妊婦健診は、前年度より体制を変更し、ローリスクあるいは医師が

可能と判断した妊婦を対象に、妊娠16週、28週、38週の3回を担当しています。現行の妊婦健診は、保健指導の重要な時期を考慮して医師と相談し決定しました。また、助産師外来実施日には、助産師が判断に迷うとき、急な診察依頼に備えて医師が待機しています。医師と助産師がそれぞれの専門性を發揮して母子の経過を安全に見守る、まさに、協働体制の整った妊婦健診です。

これから

助産師外来は、産科の経験3年目以上の助産師が担当しています。責任への重圧や不安はもちろんありますが、それを上回るほどのやりがいと充実感を感じながら、個々の助産師がスキルアップを図っています。今、すべては…お母さん、赤ちゃん、そしてその家族のために。北海道社会保険病院の助産師は楽しみながら頑張ります!!

NICU

当病院には新生児の集中治療ユニット(NICU)が8床あり、在胎週数26週以上のすべての新生児疾患に対応しています。新生児科・小児科医が当直しておりますので、24時間、新生児の治療が可能です。助産師外来とも連携し、あらゆる事態に対応できるように準備しています。

〈助産師外来の運営状況と実績〉

実施日時 月曜日・水曜日・木曜日: 14:00~15:30
火曜日: 9:00~11:30 14:00~15:30
金曜日: 9:00~11:30

診察時間 1人30分
完全予約制

診察内容 妊婦健診:問診・診察、身体計測、超音波検査、保健指導
母乳外来:乳房トラブル対処、児体重計測、授乳指導、
卒乳・断乳、育児相談

**担当助産師
総人数** 16人

**H22年度
実績** 妊婦健診実施数13件/月(H23年2月以降は50件/月)
母乳外来実施数20件/月(産後1か月の母乳栄養確立の割合:平成22年度77%、
参考データ:健やか親子21 48.3%, 2010年)



健康教室のご案内

当病院では、健康への正しい知識を深める機会として、毎月2週にわたって健康教室を開催しております。

医師、看護師、薬剤師、管理栄養士等が分かりやすくお話しします。
どなたでも無料でご参加いただけます。



場所 外来棟1階ホスピタルモール
(エスカレーター裏)

時間 11:30~12:00

予約 予約はいりません。
どなたでも無料でご参加いただけます

※開催日など詳しくは、ホームページやチラシをご覧ください。

外来の待合場所が会場です

整形外科

中央
処置室

会計窓口

エスカレーター
会場はこちら

再来
受付機

正面玄関

 健康教室から薬剤師のお話です

睡眠薬のおはなし

薬剤部 佐藤 裕美

睡眠薬というだけで皆さんはどうのようなイメージをお持ちでしょうか?

「1回飲みだしたらやめられなくなる(依存)」「効かなくなって量が増える(耐性)」なかには「頭がおかしくなる」さらには「はやすくボケちゃう」

もしもこれらが本当のことであるなら、そんな恐ろしい薬を医師は処方したりしません。皆さんの中にあるこれらのイメージは1960年代ころまで使用されていた古い睡眠薬によるものなんです。太宰治や芥川龍之介といった小説家はこの古い睡眠薬で自殺をはかったという事実も皆さんに怖いイメージを残しているのではないでしょうか?今はこの古い睡眠薬は使用されていません。現在病院で処方されている睡眠薬は正しく使えば依存や耐性のほとんどない薬が使用されていますから、まずは安心してください。

私たちはよく患者さんから「これ強い睡眠薬なんですよ?」と聞かれます。睡眠薬にも様々な種類があり、それぞれの種類毎に分類されているのですが、実は睡眠薬は強い弱いではなく長い短いで分類されており、不眠症の種類に応じて効果の長い睡眠薬、短い睡眠薬を使い分けているんです。さて、あなたの睡眠薬はどのタイプでしょうか?十分な睡眠は取れていますか?そして正しく睡眠薬を使っていますか?

睡眠薬以外にも、より良い睡眠のために皆さんにも出来ることが一つあります。それは「睡眠環境を整える」ことです。しかしながら世の中には間違った睡眠知識が広まっており、それが睡眠環境を乱している場合もあります。「睡眠は8時間必要って本当?」「寝れない夜は寝酒が良く効く?」「長く眠ればその分疲れは取れる?」「昼寝はたつぱりするのがいい?」「寝付けなくても布団に入つていれば眠れる?」

気になりますよね。答えは健康教室でお話していますので、お時間がございましたら是非ともいらしてください。

放射線部 VOL.1

放射線部技師長 中島 詳

放射線部は、部長の広瀬副院長と14名の診療放射線技師で病院の放射線検査と健康管理センターの放射線検査および放射線機器管理、放射線管理(個人被ばく線量、漏洩線量)、放射線画像管理などの業務を行っています。

使用放射線機器は、X線単純撮影装置・乳腺撮影装置・CT・MRI・血管造影装置・RI(SPECT装置)・X線TV等であります。

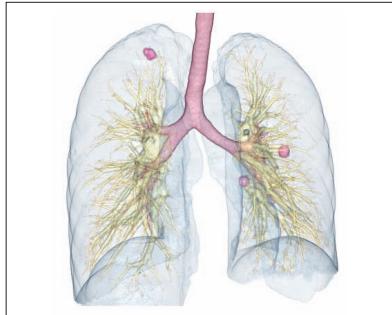
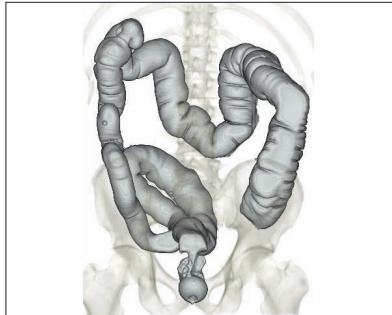
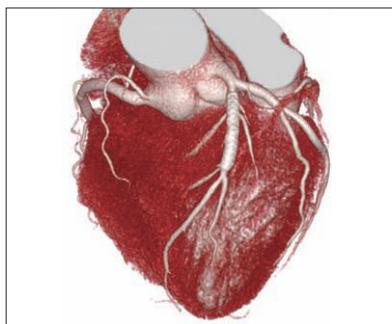
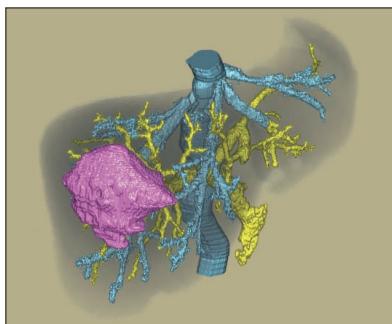
今年度4月から、安全に検査を実施するために全てのCT・MRI検査において問診と説明を行い、患者さんから同意書をいただいている。また、造影剤を使用する検査では腎機能や経口糖尿病薬の服用等の確認後検査を行っています。

〈放射線部使用装置の紹介〉

①CT…マルチヘリカルCT(64列、16列)2台を有しています。

一台はGE社製Light Speed VCT Vision(64列)と、もう一台は東芝社製Aquilion 16(16列)です。VCT Visionは、画像再構成の計算方法が従来法(Filtered Back Projection法)から逐次近似法を用いることにより低線量撮影でも高分解能画像を得られ、従来の被ばく線量が1/2以上低減できるようになった装置です。検査部位は、全身対応で、臓器、血管、骨、軟部組織等です。当病院における昨年度の検査数は10,825件で内訳は胸部35%、腹部29%、胸腹部14%、心臓13%、その他9%となっています。

マルチヘリカルCTになって短時間で体軸方向に長く撮影でき、より細かい画像情報を得ることが出来るようになり通常の断層像の他、専用のワークステーションを用い任意断層面や3-D画像を作成できるようになり診断や治療および手術支援に役立っています。



簡単ですが、放射線部使用機器の一部を紹介させていただきました。

是非ともご利用くださいますようお願いいたします。検査依頼は地域連携相談室までご連絡ください。

〈医療機関専用〉FAX:011-815-1005(地域連携相談室)

症例検討会のお知らせ

北海道社会保険病院では、地域の先生方との研修・交流の場として症例検討を中心とした勉強会を開催しています。

札幌南部呼吸器懇話会

第29回

日 時: 平成23年10月12日(水) 18:30~
場 所: 北海道社会保険病院 3階講堂

リバーサイド消化器懇話会

第29回

日 時: 平成23年11月15日(火) 18:30~
場 所: 北海道社会保険病院 3階講堂

豊平・清田・南区循環器懇話会

第19回

日 時: 平成23年11月22日(火) 19:00~
場 所: 北海道社会保険病院 3階講堂

詳細は地域連携相談室までお問い合わせください。

症例検討会を実施しました

第3回

中の島ハートカンファレンス

日 時: 平成23年6月14日(火) 18:45~
場 所: 北海道社会保険病院 3階講堂
参加者: 医師 27名 コメディカル 14名
講 演: 「臨床における心房細動の
management&カテーテル
アブレーション」
北海道社会保険病院の石丸伸司先生の
講演がありました。



第18回

豊平・清田・南区循環器懇話会

日 時: 平成23年6月21日(火) 19:00~
場 所: 北海道社会保険病院 3階講堂
参加者: 医師 39名 コメディカル 8名
講 演: 「循環器内科医によるGlobal
Vascular Intervention」
東海大学医学部の緒方信彦先生の講演が
ありました。



第28回

札幌南部呼吸器懇話会

日 時: 平成23年6月22日(水) 18:30~
場 所: 北海道社会保険病院 3階講堂
参加者: 医師 13名 コメディカル 2名
講 演: 「非結核性抗酸菌症の現状と問題点」
西岡病院の五十嵐知文先生の講演がありました。



災害救急指定日

平成23年8月22日(月)・9月15日(木)・9月25日(日)

二次救急指定日

循環器・呼吸器系 平成23年8月19日(金)・9月12日(月)

消化器系 平成23年8月13日(土)・8月31日(水)
9月21日(水)

小児系 平成23年8月29日(月)・9月5日(月)



変更になる場合がございます。当日の新聞等で確認をお願いいたします。

北海道社会保険病院
地域連携相談室

〒062-8618 札幌市豊平区中の島1条8丁目3-18

TEL 011-831-5151(病院代表) URL <http://www.hok-shaho-hsp.jp/>

<医療機関専用: 地域連携相談室直通> TEL 0120-515-830 / FAX 011-815-1005